

## 合併後の鶴岡市の人口減少 25年度以降は年1500人超

合併後の鶴岡市の人口は、平成26年度まで年間平均1318人の減少ですが、25年度以降は年間1500人を超え、減少が加速しています。

県内での社会移動は村山地域への超過が270人と最も多く、庄内では三川町へ183人、遊佐町へ32人と続きます。

転出、転入の社会移動では、平成17年10月1日の合併後、27年31日の合併後、27年31日までの転出超過が5225人となっており、そのうち県外への超過は5183人と99%を占めています。

### 鶴岡市の社会増減・自然増減の推移 (人)

	転入	転出	社会増減 (転入-転出)	出生	死亡	自然増減 (出生-死亡)	社会・自然 増減計
平成18年度	3,382	3,877	-495	1,125	1,605	-480	-975
平成19年度	2,895	3,788	-893	1,044	1,634	-590	-1,483
平成20年度	3,180	3,648	-468	1,001	1,778	-777	-1,245
平成21年度	3,116	3,536	-420	1,012	1,749	-737	-1,157
平成22年度	2,740	3,057	-317	997	1,817	-820	-1,137
平成23年度	2,797	3,308	-511	989	1,835	-846	-1,357
平成24年度	2,827	3,337	-510	919	1,824	-905	-1,415
平成25年度	2,697	3,405	-708	924	1,788	-864	-1,572
平成26年度	2,754	3,268	-514	877	1,881	-1,004	-1,518
合計	26,388	31,224	-4,836	8,888	15,911	-7,023	-11,859

### 鶴岡市の社会移動 (H17.10.01~H27.03.31)

	鶴岡市から転出	鶴岡市へ転入	収支 (転入-転出)
山形県			
酒田市	2,622	2,720	98
庄内町	791	955	164
三川町	748	565	-183
遊佐町	225	193	-32
庄内計	4,386	4,433	47
村山	4,586	4,316	-270
最上	555	701	146
置賜	836	871	35
県計	10,363	10,321	-42
県外	21,341	16,158	-5,183
計	31,704	26,479	-5,225

### 鶴岡市内の社会移動(転居) (H17.10.01~H27.03.31) (人)

	転居先							計
	鶴岡	藤島	羽黒	榎引	朝日	温海		
鶴岡	26,247	787	806	627	282	416	29,165	
藤島	925	965	76	22	9	16	2,013	
羽黒	893	103	484	51	14	16	1,561	
榎引	752	47	41	449	32	7	1,328	
朝日	532	15	24	126	249	9	955	
温海	950	13	24	18	9	765	1,779	
計	30,299	1,930	1,455	1,293	595	1,229	36,801	

鶴岡市への転入の方が多くのは最上地域から146人、置賜地域から35人、庄内では庄内町から164人、酒田市から98人などです。

鶴岡市内での転居は、合併後旧町村から鶴岡地域への転居が最も多くなっています。

鶴岡と藤島では地域内の転居が最も多くなっています。

### 国勢調査における庄内5市町の人口と世帯数 (2015.10.01)

	人口	前回比	増減率	世帯数	前回比	増減率
鶴岡市	129,630	-6,993	-5.12%	45,332	-182	-0.40%
酒田市	106,267	-4,884	-4.39%	39,308	353	0.91%
三川町	7,728	-3	-0.04%	2,219	79	3.71%
庄内町	21,669	-1,489	-6.43%	6,638	-10	-0.15%
遊佐町	14,212	-1,268	-8.19%	4,510	-98	-2.13%
庄内地域	279,506	-14,637	-4.98%	98,007	142	0.15%
県計	1,122,957	-45,967	-3.93%	393,920	5,312	1.37%

2015年国勢調査(10月1日基準)の速報値でも鶴岡市が5年間で6993人減少し、世帯数でも減少していることが明らかになりました。

平成大合併と行財政改革による急激な自治体リストラが地域の

## 私の昭和

15

鈴木重雄(88歳・八色木)

小学校6年間  
私は勉強は好きでないが学校が好きだった。小学校6年間皆出席6名が表彰された。私は1年生の時風邪で1日欠席したことで表彰から漏れて悔しかった。私は身長、成績も中位で目立たない存在であったので褒められることも叱られることもなかった。

4年生の時学習辞典をもらった。おかげで優等生の中に選ばれ表彰されたのが嬉しかった。辞典がなくなると成績は元に戻った。親から勉強しないと大人になつてから苦労する長。部下2万3千余を率いる。昭和19年インドに侵攻、インパール攻略に向かう。しかしその頃は日本は敗色すでに濃く、更なる戦線拡大は絶対無理な状況だった。

佐藤中将の上司たる川辺・牟田口両司令官たちの前進命令に真向から異を唱え、佐藤中将は部下全員に後方陣地への退却命令を発した。そのまま戦闘を続けていたならば戦死したかも知れない1万余の兵の命が助かったのだ。

菩提寺たる余目・乗慶寺には佐藤中将の勇氣ある「抗命」行動によって命助かった烈師団の部下たちが共同して資金を集めてつくった佐藤中将の顕彰碑が建立されている。

## 昭和も遠く②

### 「抗命」

中町 成澤 功



佐藤幸徳中将追慕之碑 (余目・乗慶寺)

佐藤幸徳 中将 (1893 (明治26)年〜1959 (昭和34)年)。余目生まれ。戦時中ピルマ方面軍第31師団(烈師団)師団

菩提寺たる余目・乗慶寺には佐藤中将の勇氣ある「抗命」行動によって命助かった烈師団の部下たちが共同して資金を集めてつくった佐藤中将の顕彰碑が建立されている。



# 一人ぼっち(?)の留学生

(新町 齋藤留治)

先日、北の独裁国の核実験が報道されて私はカナダ・バンクーバーで目にした事を思い出した。

小雨が降る、ある金曜日、私はバンクーバーのチャイナタウンの街角で他の留学生達と一緒に横浜のチャイナタウンにあるような大きな門(?)を見上げていた。

バンクーバーで私が通った学校では、毎週金曜日には校外学習と称して色々な所に連れて行ってくれたが、この時のチャイナタウン見学も活動のひとつ。バンクーバーに来てまだ間もない頃だったのでダウンタウン見物も兼ねて参加をした。

国は違っても相合傘の人や店の軒先で雨宿りをしながら皆さん楽しそうにしていたが、一人だけ離れていた男子学生は誰とも話もしていないように見えたので、私と知り合いの韓国人留学生に日本語



で「あの人も何もしゃべらない、何故」と尋ねてみた。

すると返ってきた言葉は「彼は北朝鮮からの留学生、多分、高級官僚の一族だろうから怖いので韓国人留学生は誰も近寄らないの」と。

私の語学力はいい加減なので、難しい事を英語で会話なんてとても出来なかったのだが、知人となった韓国人留学生の一人である彼女は綺麗な日本語(母が日本人・祖母は水戸市在住)で教えてくれた。



東北訛りの私にとって彼女と話すことはストレス解消にもなった。この時改めて感じた南北のこだわり、彼は今頃、英語の話せる高級官僚として独裁者を支えているのであろうか。

一人の独裁者のために、留学生でさえ寂しい思いをしなければならなかった事をどう思っているのか聞いてみたくもあるし、憲法擁護の重い責任があるアベ総理の軽率極まりない発言を聞く度に、北の独裁者の顔と重なって見えて仕方がない。

## 政治漫画「安倍政治・恐怖の道」、イラン映画監督も警告

—しんぶん赤旗を読んで 青山崇

新聞の一つの顔として政治漫画がある。し



安倍政治・恐怖の道

倉田 新

しんぶん赤旗 1月13日付け

んぶん赤旗1月13日付は「緊急事態条項」で「戒厳令」「独裁政治」の道へ進んでいくという漫画である。自民党憲法改正草案は、新たに「第9章緊急事態」を設け、首相は緊急事態宣言すること、法律と同じ政令を制定し、財政支出を行い、地方自治体の長に指示することができ、国民は政府の命令に服従ということになる。まさに、恐るべし戦前の亡霊「戒厳令」復活であり、安倍首相がヒットラーの

ごとき独裁者となる暗黒日本への道である。甘くみてはなるまい。

同紙14日付潮流は映画「独裁者と小さな孫」を紹介。独裁で国を動かしてきた老大統領が、クーデターで孫と逃避行するうちに、みずかららに苦しみだした民の姿に接し己の罪深さを知ることになる。監督であるイランのモフセン・マフマルバフさんは来日し語っている。

「今こそ、この映画は日本で見られるべきだと思います。なぜなら日



### 新年会にて

世の中、近くにあっても知らないでいることは多いようだが、この会は35回を数えている。年1回だからもう

そんな年数になつていく趣味同好グループの新年会というもので私は前回からの参加。

▲踊り・カラオケは勿論、絵・短歌・体力づくり・山野草やハムとかなかなかの多彩だが、そこに老人クラブが入っていたと知ったのが去年だったのです。

▲まー酒飲みのみだから余興に尺八をやってみつかという事で申し込んだのだ。実は前回俳句の人に、尺八で歌謡曲聞きてーなんて言われていたもんでネ。

▲ところがどうだ。音が出ないんだ。ここでアガツタわけではないし、このままじゃオワレネーと再挑戦させてもらったがやはり同じ

本の平和とデモクラシーは危険と向き合っています。安保法案の集団自衛権について通してしまつたことに沈黙を続けていけば、どんないろいろな法案が通ります。いままでも私達が知っている芸術や文化や技術がアジア一番高い日本は、このままでは全ての産業が軍のためになりますし、文化人だった日本人も銃を手にして戦争に行かなければいけなくなる」。

だった。俺のカスカナ音に会場の皆さんが歌ってくれたんだが…。

▲司会や音響操作の人などからは、また来年来いよとの言葉。有りがたいことです。

▲こんなことになつても落ち込まないのが俺の欠点だ。このようなことを恥ずかしいと思うようなら初めから出るなんて思わねば良いのだ。あれは失敗。今度は…と考えるのだ。

▲今度のときは、風邪ひかないことなのです。いつか尺八の先生に言われたんですヨ。体の調子が音に出るんだと。この日、声は普通に近い声なんですけど、風邪気味だったんです。

竹は誤魔化しがきかなかつたということです。▲俺以外全てが新年会に相応しい出来でした。目が不自由で手を引かれて上がった女性は70代後半でしょうか、いい声でしたネー。

(石川)